

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	15-093	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Impact of pre-diagnosis behavior on risk of death from esophageal cancer: a systematic review and meta-analysis.</p> <p>食道癌診断前の生活習慣が食道癌死亡リスクに与える影響: システマティックレビューとメタアナリシス</p>		
執筆者		
Fahey PP, Mallitt KA, Astell-Burt , Stone G, Whiteman DC.		
掲載誌		
Cancer Causes Control. 2015 Oct;26(10):1365-73. doi: 10.1007/s10552-015-0635-z.		
キーワード		PMID
食道腺癌、食道扁平上皮癌、生活習慣、死亡リスク		26210679
要 旨		
<p>目的： 食道癌と診断された患者の多くは食道癌を原因として死亡するが、生き残った患者について発病前の生活習慣等が影響したかどうかは明らかでない。システマティックレビューとメタアナリシスを行い、食道癌死亡するリスクにおける診断前の生活習慣等の影響を調査した。</p> <p>方法： 診断前の喫煙・飲酒・肥満・身体活動・日常的な NSAID の使用と、食道癌(扁平上皮癌と腺癌)死亡の関連を報告した研究についてシステマティックレビューを行った。各研究の特性を示し、収集した結果についてのメタ解析を行い、食道癌死亡のハザード比を算出した。</p> <p>結果： 644 件の文献のうち、12 研究からの 13 文献が採用基準に合致した。調査地・カテゴリー化の方法・リスク因子の調整法・結果について、各研究間でかなりの変動がみられた。要約推定量は、扁平上皮癌について、喫煙は死亡リスクが 1.19 倍(95%信頼区間 1.04-1.36)、飲酒は 1.36 倍(95%信頼区間 1.15-1.61)だった。腺癌については有意な関連を示すものはなかった。研究間の異質性検定では有意差を認めしたが、食道癌の死亡リスクを下げる因子としては、BMI $\geq 25\text{kg/m}^2$ が有意に関連していた(扁平上皮癌:ハザード比 0.80(95%信頼区間 0.67-0.95)、腺癌:ハザード比 0.80(95%信頼区間 0.68-0.95))。</p> <p>結論： 食道癌診断前の修正可能な危険因子数(喫煙、飲酒、BMI)は、持ち越し効果によって食道癌死亡リスクに影響する。</p>		